

『トンネルの先にある光』に関するレポート

作成者：Ritter Diaz、ビジネスコンサルタント

東京、2022年2月22日

ここにきてようやく、パンデミック終息を予感させる希望的なニュースが流れ始めました。思い起こせば、2021年11月24日に南アフリカで初めて発見されたオミクロン変異株は、それまでの株と比較して変異が多岐にわたり、感染力も強まっています。

しかし、オミクロン株感染時の症状は、これまでの変異株よりも軽症の傾向があり、発熱や乾いた咳、寝汗、体の痛みなど風邪に似た症状が主です。また初期型と異なり、潜伏期間が短く、感染してから2~3日後に症状が現れるのも、この株の特徴です。

オミクロン株はワクチン接種者にも感染が広がっていますが、ワクチンを接種することで感染予防の効果が上がり、感染した場合でも重症化のリスクが下がることで、入院者数の増加を防いでいることは間違いないはずです。とは言え、ワクチンを接種すべきなのは、高齢者や慢性疾患のある人など、感染した場合に重篤な状態に陥るリスクの高い人々だけで良いのではないかと私は思います。

同様に、政府は、先天性疾患や感染症、薬物治療などの影響を受けて免疫力が低下している、重症化リスクの高い未成年者にのみワクチン接種を許可すべきであると私は考えます。子どもは成長段階にあり、ウイルスや細菌に日常的にさらされることは、彼等の免疫力を継続的かつ自然に高めるために必要不可欠なことなのです。COVID-19は、小児における重症化リスクが低いため、スウェーデン政府は、信頼性の極めて高い研究結果が世界的に示されるか、より危険な株が出現しない限り、5歳から11歳の子どもたちにワクチンを接種しないよう勧告しています。

ワクチン以外の薬としては、2021年12月に米国連邦医薬品局(FDA)が承認した、メルク社製の18歳以上を対象としたMolnupiravir(モルヌピラビル)*1、ファイザー社製の12歳以上を対象となるPAXLOVID™(パキロビッド)*2といった経口投与型の抗ウイルス剤が開発されています。

*1 Molnupiravir(モルヌピラビル)：インフルエンザ治療薬として開発された経口活性がある実験的な抗ウイルス薬で、日本では2021年12月24日に特例承認された。

*2 PAXLOVID™(パキロビッド)：日本では2022年2月10日に特例承認された。

また昨年、バイデン大統領政権が抗ウイルス薬の発見・開発・製造を加速するために、30億ドルの予算を発表しました。これをうけ、今年中に米国市場に新たな抗 COVID-19 の薬が登場するかもしれません。日本では、塩野義製薬が「S-217622」という抗ウイルス剤を開発し、現在、臨床試験が進められています。

これらの薬は、症状が軽度から中等度の患者に投与されていますが、今後は高齢者、免疫不全者、心臓病、癌、糖尿病などの基礎疾患を持っている人々への投与が重要になってくると言えます。

もう一つのニュースは、国によっては、国民への規制をすでに解除し始めていることです。これは、ワクチン接種率が上がってきたこと、また、オミクロン変異株のリスクが低いためと考えられます。EU 諸国ではデンマークが最初に、次いでスウェーデンが規制を解除しました。同様にイギリスも、エリザベス女王が最近ウイルスに感染しましたが、すべての規制を解除しています。スペインは COVID-19 を風土病と宣言することの是非を議論しており、ドミニカ共和国は COVID-19 による制限をすべて撤廃しました。ウルグアイ東方共和国では、ワクチン接種者は入国後の隔離の必要がなく、国内居住者と外国人の入国には抗原検査のみ実施する (PCR 検査は行わない) など、政府が国境を広く開放しています。

COVID-19 対策の解除・緩和の流れは、米国内も同じです。この点について、米国国立アレルギー感染症研究所のアンソニー・ファウチ所長は、「米国国内の状況は、感染拡大を阻止するのに十分な免疫レベルまで到達しており、パンデミックの完全な終息に近づいている。」と述べています。

アジアでは、中国がいまだ「ゼロコロナ政策」に固執し、結果として中国の人々の免疫獲得に悪影響を及ぼすのではと危惧されていますが、中国政府がファイザー社製の医薬品パキロビッドを条件付きで承認していることもまた事実です。実はこの薬は、中国が承認した最初の外国製 COVID-19 治療薬であり、中国政府によるこの承認は、パンデミック抑制のための政府の柔軟なアプローチを示唆するものとも捉えられています。

日本も経済団体や大学からの強い働きかけで、ビジネスパーソンや学生に対する入国許可が始めており、3月には全面的な入国制限の撤廃が実現する見込みです。ただ、3回目のワクチン接種が遅いと批判されている、高齢者(約2900万人)や医療従事者(約600万人)向けの接種を日本政府が加速させることがキーになってくると言えます。

工学的応用をベースに、疫学的な管理を徹底していた韓国では、感染リスクの高い人々だけを選別し、集中的に管理を行ってきました。興味深いことに、これはパンデミック発生時からの

私の意見と同じであり、2020年7月13日に私のブログに掲載した記事『感染者数ではなく、脆弱性に焦点を合わせる』にその内容を記しました。この方針が、パンデミック発生当初からあったならば、世界各国に影響を与えている現在の社会経済的な大混乱は避けられたはずで

す。

それにもかかわらず、世界保健機関(WHO)のテドロス・アダノム・ゲブレイェソス事務局長は2月上旬、COVID-19に対する勝利宣言は時期尚早であると宣言したのです。オミクロン株の感染力の高さがWHOの懸念となっていることは理解できますが、現実には、世界はすでにこの2年間COVID-19と共存してきており、SARS-CoV-I(2003)やMERS-CoV(2012)と同じコロナウイルス科のウイルスであることから、私達人類にとって未知のウイルスではすでにないのです。

加えて、WHOや各国政府は、国民の80%は軽症か無症状、約15%は入院を要する重症、残りの5%だけが命の危機に直面する可能性があるということをよく理解しています。

パンデミックの宣言から約2年が過ぎ、これまでに580万人がCOVID-19によって死亡していることも忘れてはなりません。しかし、不思議なことに、毎年約800万人から900万人が虚血性心疾患で亡くなっており、これはCOVID-19による死者のほぼ2倍に達しますが、WHOがこの病気について同じレベルの懸念を示し、国家的緊急事態を宣言することはないようです。

私たちが永久的にこのストレスにさらすのではなく、私はWHOの専門家に、パンデミックの歴史、特に102年前の1918年2月から1920年4月にかけて発生した悪名高き「スペイン風邪」の歴史に注目して欲しいと思います。控えめに見積もっても、1918年の大流行には3つの波があり、世界中で1700万から5000万人の死者が出たと考えられています。当時は、今日のようなワクチン(第二次世界大戦後に登場)も、政府や国際機関の支援を受けた国際的な製薬会社による医薬品も存在しませんでした。

1918年のパンデミックは、H1N1型(A型インフルエンザ)や後発のインフルエンザの起源となり、鳥インフルエンザや豚インフルエンザも相まって、毎年、我々が予防接種を受けるきっかけとなった為、「すべてのパンデミックの母」という不名誉な称号が与えられています。米国立アレルギー感染症研究所の病原体・ウイルス進化セクションのチーフであるジェフェリー・タウベンバーガー博士は、2020年12月の歴史ドットコムの記事で、1918年のパンデミックは実際には完全な終息とはなっておらず、代わりに「抗原変異」と呼ばれるウイルスの遺伝子変異のプロセスに入り、アジアインフルエンザ(1958~1959)、香港インフルエンザ(1968~1969)、および豚インフルエンザ(2009~2010)など他のパンデミックを発生させ、今日まで進行していると指摘しています。

タウベンバーガー博士によると、1918年型は変異のプロセスを経て、1920年4月までには世界的に人々が自然免疫を獲得したため、季節性のインフルエンザと認識されるようになったと考えられています。つまり、2年間変異を続ける中で、世界中で感染が蔓延した結果、この株は強い毒性を失ったと言えるのです。

オミクロン株の世界的な蔓延、また1918年のパンデミックの経験から私が思うことは、このウイルスはすでに弱毒化の段階に入っており、もう間もなく「5番目の季節性インフルエンザ」になるかもしれないという事です。

WHOはCOVID-19について過度に私たちの心配を煽り、ストレスを与え続けるのではなく、次のパンデミックが来たときに、病気と闘える免疫システムが私たちに備わっているよう、世界の人々に健康的な食事と定期的な運動を勧めるようなメッセージの発信へと方向を変えるべきだとも思います。予防は、あらゆる保健機関が国民に示すべき最良の勧告であるからです。

また、将来起こるかもしれない感染症の大流行に対する政策提言としては、以下のようなものが挙げられます。1) 慢性疾患を持つ人々のデータベースを全国的に更新する、2) リスクの高い人々だけを隔離して保護することで、重症患者数を抑え、医療機関の負担を軽減させる、3) 家庭、学校、職場、その他の公的空間を対象に、国民に対し、リスクの高い人々への予防策を求める積極的なメディアキャンペーンを行う、などです。これら3つの基本的な考え方は、人命を守り、無駄な資金を使わず、社会経済的な生活の混乱を避けることにつながると言えます。

これまで、私たちは科学に従ってきました。科学は常に新しい情報を発信していますが、人類の運命を左右するような事柄を決定できるものとは言いきれません。どこかの誰か(ザカリア・ファリード)が言ったように、戦争は将軍だけに任せるべきではない、非常にデリケートな問題なのです。だからこそ、そろそろ自然の法則に立ち返り、人々が自分自身の人生に責任を持つようにすべき時なのです。

訳：ディアス畑田 紋奈

Sources:

“FDA NEWS RELEASE Coronavirus (COVID-19) Update: December 23, 2021”, consultado el 24 de enero de 2021. <https://www.fda.gov/news-events/press-announcements/coronavirus-covid-19-update-december-23-2021>

“Píldoras contra el COVID: ¿Funcionan en ómicron? ¿Quiénes deben tomarlas?”, AP, 26 de diciembre de 2021, consultado el 25 de enero de 2022.

<https://www.elfinanciero.com.mx/salud/2021/12/26/pildoras-contra-el-covid-funciona-en-omicron-quienes-deben-tomarlas/>

“Biden Administration to Invest \$3 Billion from American Rescue Plan as Part of COVID-19 Antiviral Development Strategy” HHS Press Office, 17 de junio de 2021, consultado el 25 de enero de 2022. <https://www.hhs.gov/about/news/2021/06/17/biden-administration-invest-3-billion-american-rescue-plan-as-part-covid-19-antiviral-development-strategy.html>

“Japan to consider early approval for Shionogi COVID-19 pill”, Japan Times, February 8, 2022, accessed on February 9, 2022.

<https://www.japantimes.co.jp/news/2022/02/08/national/shionogi-covid-drug-early-approval/>

“Sweden decides against recommending COVID vaccines for kids aged 5-11”, Yahoo News, January 27, 2022; accessed on February 9, 2022. <https://www.yahoo.com/news/sweden-decides-against-recommending-covid-142233166.html>

“Denmark becomes first EU country to lift all Covid-19 restrictions”, Scott McLean, Livvy Doherty and Lauren Kent, CNN, February 1, 2022; accessed on February 9, 2022.

<https://edition.cnn.com/2022/02/01/europe/denmark-lifts-covid-restrictions-intl/index.html>

“Suecia elimina desde hoy todas las restricciones por la pandemia”, La Estrella de Panamá/EFE Servicios, 9 de febrero de 2022; consultado el 9 de febrero de 2022.

<https://www.laestrella.com.pa/internacional/mundo/220209/suecia-elimina-hoy-restricciones-pandemia>

“WHO warns it’s “premature” to declare victory over COVID-19”, AFP-JIJI, February 2, 2022; accessed on February 10, 2022. <https://www.japantimes.co.jp/news/2022/02/02/world/who-pandemic-victory-caution/>

“Full blown pandemic could be ending soon, Fauci says; US daily infection totals falling sharply: COVID-19 Updates”, Claire Thornton, John Bacon, USA Today, February 13, 2022; accessed on February 18, 2022.

<https://www.usatoday.com/story/news/health/2022/02/13/us-infection-totals-falling-covid-updates/6768059001>

“Covid-19 restrictions: Map of COVID-19 case trends and restrictions”, February 16, 2022; accessed on February 18, 2022. <https://www.usatoday.com/storytelling/coronavirus-reopening-america-map/>

“China’s approval of Pfizer pill opens door to ending ‘COVID zero’”, Bloomberg, February 15, 2022;

accessed on February 23, 2022.

<https://www.japantimes.co.jp/news/2022/02/15/asia-pacific/china-pfizer-pill-ending-covid-zero/>

“Uruguay autoriza ingreso al país con ‘test’ de antígenos en lugar de PCR”, La Prensa/AFP, 19 de febrero de 2022, consultado el 19 de febrero de 2022. <https://www.prensa.com/mundo/uruguay-autoriza-ingreso-al-pais-con-test-de-antigenos-en-lugar-de-pcr/>

“Why the 1918 Flu Pandemic Never Really Ended”, Dave Roos, December 11, 2020; accessed on December, 2021. https://www.history.com/news/1918-flu-pandemic-never-ended?cmpid=email-hist-inside-history-2022-0103-01032022&om_rid=&~campaign=hist-inside-history-2022-0103